

令和 7 年 4 月 29 日

主旨

本市サッカー協会第 4 種委員会主管の各公式戦においてはこれまでも大会抽選会や要項への記載等を通し、熱中症対策や発雷時における危険防止について注意喚起してきたところであるが、JFA 熱中症対策ガイドラインの一部改正が行われ、また今般、奈良県においてサッカー部活動中において発生した落雷事故を受け、JFA より改めて注意喚起が発せられたことから、本市サッカー協会第 4 種における熱中症対策ガイドラインを一部修正し、落雷事故防止対策と合わせ下記の通り通知いたします。

I 熱中症の防止について

1. JFA「熱中症対策ガイドライン」の遵守を必須とする。

2024 年 5 月に日本サッカー協会から『熱中症対策ガイドライン』が発せられ、同年 7 月に千葉県サッカー協会からも同様のガイドラインが発せられている。下記のウェブサイトリンクにて内容を確認し、各試合会場における対策を施すほか、練習時や練習試合においてもガイドライン趣旨に沿って運営すること。

2. WBGT（暑さ指数）測定計を各会場において試合前及び試合中に計測したうえで以下の対策を施すこと。

計測結果の数値に基づく各対応は以下の通り

（1）試合を実施するための対応

試合前予測値(°C) 対応

I	$31 \leq \text{WBGT}$	原則中止	・当該時間帯にキックオフ時刻を設定しない ・試合中に当該状況が予測される場合は、STEP(1)、(2)、(3)を講じる
II	$28 \leq \text{WBGT} < 31$	厳重警戒	・STEP(1)、(2)を講じる
III	$25 \leq \text{WBGT} < 28$	警戒	・STEP(1)、(2)を講じる

試合中実測値(°C) 対応

I	$31 \leq \text{WBGT}$	原則中止	・試合を中止・中断又は延期する ※但し、STEP(1)+(2)+(3)+クーリングブ레이크を全て実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる
II	$28 \leq \text{WBGT} < 31$	厳重警戒	・STEP(1)、(2) + クーリングブ레이크実施を条件に、試合実施可
III	$25 \leq \text{WBGT} < 28$	警戒	・STEP(1)、(2) + (クーリングブ레이크又は飲水タイム) 実施を条件に、試合実施可

(2) 熱中症予防対策

① STEP 必須事項)

以下の方法を組み合わせ、試合の前・中・後に身体冷却を行う。

- ・外部冷却：アイスバス、アイスパック、クーリングベスト、ミストファン、送風、頭部・頸部冷却、手掌冷却 等
- ・内部冷却：水分補給、アイススラリー等

② STEP 2 (28℃ ≤ WBGT の対策事項)

- ㊦ ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
- ㊧ ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
- ㊨ 各会場に WBGT 計を備える。
- ㊩ 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
- ㊪ 観戦者のために、飲料を購入できる環境（売店や自動販売機）を整える。
- ㊫ 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。
- ㊬ クーリングブレイクまたは飲水タイムの準備をする。
※飲水タイムには 戦術的指示は不可
- ㊭ 試合時間の短縮、ハーフタイムの時間の延長を積極的に検討する。

③ STEP 3 (31℃ ≤ WBGT は試合を中止・中断・延期)

- ㊮ 屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない。
- ㊯ 会場に医師、看護師、BLS 資格保持者、JFA スポーツ救命ライセンス講習会又は JFA+PUSH コース受講者のいずれかを常駐させる。
- ㊰ クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う。

3. WBGT 計の計測の仕方

- ① 身長のおよそ 3/2 の高さで測るとされており、大人の腰の高さ、約 90cm で計測する。
- ② 必ずピッチ上で、WBGT 計の黒球が日影にならないように計測する。
- ③ 計測する時間はできる限り試合開始の直前、かつ両チームに対応方法を伝達できるタイミングとする。
- ④ 試合中もピッチに近い場所で計測し続け、数値を把握する。
- ⑤ ハーフタイム時（できる限り後半開始の直前）の数値により後半の対応方法を決定し、両チームに伝達する。

4. クーリングブレイクの方法

- ① 試合においてクーリングブレイクを採用する場合は、前後半 1 回ずつ、それぞれ 2 分の 1 の時間が経過した頃（20 分ハーフの場合は 10 分を過ぎた頃）に 3 分間のクーリングブレイクを設定し、タープなど日陰となる場所で休む、これは選手も審判も同様とする。
- ② 氷・アイスパック等でカラダ(頸部・脇下・鼠径部)を冷やし、必要に応じて着替えをする。
- ③ 水だけでなく出来ればスポーツドリンク等を飲む。
- ④ 状況に応じて、クーリングブレイクを前後半それぞれ 2 回以上取ることは妨げない。

5. その他

長期リーグの日程については夏季期間をなるべく避け、やむを得ず実施する場合は各チーム 1 試合とし、またキックオフ時刻について日中を避け 15 時以降とする等の対応をお願いします。

なお、熱中症予防の考え方は、日常の練習においても同様です。実施可能な最大限の安全配慮の対策をお願いいたします。

（公社）千葉県サッカー協会第 4 種委員会が 2024 年 7 月 27 日に通知している「熱中症対策ガイドライン改正に対する対応について」も同様の趣旨としていますので併せて参考にしてください。

II サッカー活動中における落雷事故防止対策

1. 原則

- ① 危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。
- ② 周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

2. 気象情報の確認

- ① 気象庁提供情報の「雷注意報」の発表状況や、「雷ナウキャスト」で実際にどこで落雷・雷発生が高まる予測になっているのか情報収集を行う。また事前に危険が予想される場合、日程・時間を調整する等の対策を講じる。
- ② 当日の積乱雲の急激な発達や急に冷たい風が吹いた際は特に注意し、雷光が見える、雷鳴が聞こえる場合は中断、避難等を開始する。

3. 避難場所の確認

- ① 自動車等の乗り物の内部、鉄筋コンクリート製の建物の内部、避雷設備の施された建物の内部、本格的な木造建築物の内部等に避難することを原則とする。
- ② あずま屋（屋根と柱だけで壁のない建物）やテント、木のそばは危険であるため避ける。

4. 中断からの再開基準

インターネット等から気象情報を得て周辺の落雷・雷注意報を確認し、雷活動（雷鳴、雷光）が止んでから20～30分以上経過してから活動を再開すること。

5. 雷に打たれた時の対応

- ① 雷に打たれた場合、「心肺停止」「やけど」「意識障害」「鼓膜穿孔（鼓膜がやぶれること）」の症状の可能性がある。
- ② 上記可能性がある場合、救急車を呼び救急車が到着するまでの間、心肺蘇生法や火傷の手当てなど応急処置を施す。

各小学校にはAED装置が配置されているため装置の設置を確認しておくこと。

▼熱中症対策ガイドライン（PDF）

> https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline_amendment.pdf

▼JFA.jp：5月の熱中症対策：身体が暑さに慣れていない時期に心がけていただきたいこと

> <https://www.jfa.jp/medical/news/00033886/>

>

▼サッカー活動中における落雷事故防止対策について（PDF）

> <https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/rakurai.pdf>